

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館 ニュース



発行 (財) 第五福竜丸平和協会
連絡所 〒136-0081
東京都江東区夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494
URL http://d5f.org

平和のネットワークを

昨年一月六日のこと。東京の第五福竜丸展示館からボランティアのガイドのかたがみえて、私たちは立命館大学国際平和ミュージアムのボランティアと交流しようという話がありました。展示館の存在は知っていましたが、そこでも私たちと同じようにボランティアでガイドされていると知り、これは是非お目にかかってお話をうかがいたいと参加致しました。

お互いの自己紹介や話の中で、東京の方は元教員が多く、今まで福竜丸の保存や核廃絶の運動と関って来られたことが、ひしひしと伝わってきました。さて、私たち京都のほうには、国際平和ミュージアムで平和友の会の一員として、ガイドをしています。ミュージアムは一九九二年に建てられています。その翌年三月にガイドの募集があってそれから私たちは、ボランティア養成講座を受けました。

平和学入門、戦争責任のこと、加害の事実等々の講義の内容に目の覚める思いでした。子供の頃の戦争体験、原爆や空襲の被害と悲惨さ、引き揚げて帰ってきた人の苦勞など、戦争によってもたらさ

布川 庸子

れた不幸はそれなりに体験したり、本で読んで分かっていたつもりですが、私には何か欠落したものがありません。

もちろん、水爆実験で被爆した第五福竜丸のこともニュースなどで知り、広島長崎の原爆で足りずに、巨大な破壊力を持つ核兵器を作った地球をどうするつもりなんだと恐れと憤りを持ったのは事実です。たくさんのまぐろが汚染され廃棄されるのもったいなく漁師さんの労苦がふいになることにも心を痛めました。

いろいろ署名をしたり、デモに行ったりしても、日常の忙しさにまけて積極的に働きかけるということには疎い私でした。

だんだん反動化していく教育現場に耐えられなくなり五八歳で辞めた年の五月に、タイムリーにガイドの募集があったのです。どれだけのことができるかわからないけれど一生懸命やってみようというボランティアのガイド生活を踏み入れました。

ミュージアムには修学旅行や社会見学の小・中・高生や大学生、人権の研修会など、学習を目的としてこられる場合が多いです。京都の観光名所の金閣寺と竜

安寺の中間地点にあるのですが素通りする人も多く「こちらに平和ミュージアムがありますよ」と誘導したい気持ちに駆られることがあります。

九年余りの間に多くの人に出会いまして。ガイドへのお礼の手紙や感想文もいただきました。

そのなかで第五福竜丸に関して(編注・平和ミュージアムでの福竜丸事件の展示)、ある女子中学生の一文が強く心に残っています。写真としてはふと見過ごしそうな小さなものですが、久保山さんが亡くなったときのご遺族の写真が彼女の目に止まったのです。数珠を手にしたずさんの立ち姿を見て彼女はこう書いていました。

「全身から悲しいという気持ちが溢れていて、私は人の死に対する悲しみの深さを知りました」と。

私は改めて写真を見ました。そしてこの写真に触れた彼女の人間としての感性に心打たれる思いを感じました。

人の死の悲しみを知ったら、人を殺したりは出来ないだろうと。

東、西に隔たっていますがお互い、平和を願うネットワークを強く大きくしていきたいでしょう。

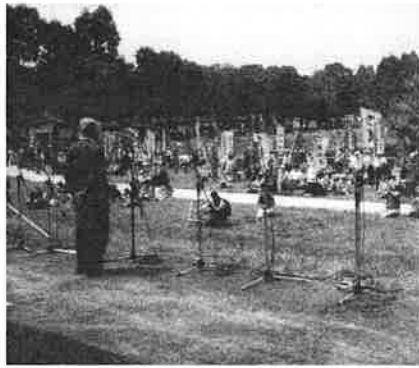
(ふかわようこ/立命館大学国際平和ミュージアム平和友の会、京都・小中学校元美術教師)

平和行進八月のヒロシマへスタート

五月晴れの五月六日、原水爆禁止・国民平和行進が、夢の島の第五福竜丸展示館前の広場から出発しました。

一九五八年からつづけられている平和行進は、全国一コースで五月から八月まで広島、長崎をめざして、歩きつがれます。

出発集合は、午後二時三〇分からエンジン音を背に、海側に参加者がつどいおこなわれ、提唱者の原水爆禁止世界大会実行委員会・河井智康運営委員会代表の開会につづき、日本被団協、日本青年団



協議会、日本山妙法寺など各団体の代表のあいさつや行進者が紹介されました。

第五福竜丸平和協会からは、川崎昭一郎会長があいさつし、被爆五〇年を来年に控え、若い世代の来館をひろげ記念事業の準備をすすめていることを紹介しました。

寄贈資料紹介

焼津市史・資料編四

近現代―

一九九七年(平成九年)度からおこなわれている焼津市史の編集・刊行事業は、一昨年の写真集「やきつべ」にはじまり、このほど、「資料編四近現代」が刊行され、展示館にも寄贈されました。

本書は、近現代の「基本的な行政資料、経済活動や社会・学校教育の変遷を物語る資料で編成」され、また焼津市の重要産業である漁業関係資料は、今年度中に「漁業編資料集」として刊行される予定です。

本編は、第一編・明治前期、第二編・明治後期、第三編・大正

期、第四編・昭和戦前期、第五編・昭和戦後期となっており、第五編第三章の社会・教育の項で「第五福竜丸水爆被災事件」「原水爆禁止決議と平和運動」が設けられ、以下の資料が収録されています。

- 〈第五編第三章収録資料〉
- 焼津市対策記録(抄) S二九・三・一六・一七
- 水爆実験関係通信文 S二九・三・一六・一三〇
- 第五福竜丸事件対策組織 S二九・三・一六
- 第五福竜丸海難報告書 S二九・三・二〇
- 焼津市議会決議 S二九・三・二七
- 焼津市水爆被害対策市民大会決議 S二九・九・二二
- 原水爆対策全国漁民大会決議 S二九・一〇・二二
- 原水爆禁止世界大会代表派遣の件(抄) S三〇・七・二七
- 第一回原水爆禁止世界大会(抄) S三〇・八・六
- 原水爆禁止を求める署名運動 S三〇・八・六
- 平和都市焼津宣言 H七・一〇・二〇
- 資料集は、A五判、一〇九〇頁、頒価三五〇〇円です。

ビデオ「焼津の水産」

このほど「水産のまち焼津」を紹介したビデオ「水産都市やいづーHeart&Pete」(同市水産課制作)が出来あがり、その総合編と漁業編の二本が平和協会に寄贈されました。

焼津は、水産業のまちとして発展し、そのなかで、一九五四年三月には第五福竜丸がビキニ水爆実験に被災するという事件にも遭遇し、それを克服してこんにちを築いてきました。

昨年度は、全国の主要一四漁港のなかで水揚げ全国一位となりました。ビデオは、次代を担う子どもたちに水産業に関心を持ってもらい、後世に伝えようとするために、マグロやカツオの漁や水揚げの迫力ある様子を撮影し、水産加工のカツオ節や黒はんぺんの製造風景、漁業を支える漁船エンジンや駿河湾深層水の紹介などから構成されています。上映時間は約三〇分で展示館ビジュアルルームで観ることが出来ます。

強力造船所での福竜丸

一九五六年五月十七日

第五福竜丸は被災後、文部省に買い上げられ、東京水産大学において残留放射能の検査の後、一九五六年に水産大学の学生の航海のための練習船として使われることになりました。その改修工事をおこなった強力造船所(現、株式会社ゴリキ)の強力修さんより、書籍「航跡は消えず」が平和協会に寄贈されました。



強力造船所の福竜丸。(提供=奥村一郎氏)

第五福竜丸は被災後、文部省に買い上げられ、東京水産大学において残留放射能の検査の後、一九五六年に水産大学の学生の航海のための練習船として使われることになりました。その改修工事をおこなった強力造船所(現、株式会社ゴリキ)の強力修さんより、書籍「航跡は消えず」が平和協会に寄贈されました。

第五福竜丸は被災後、文部省に買い上げられ、東京水産大学において残留放射能の検査の後、一九五六年に水産大学の学生の航海のための練習船として使われることになりました。その改修工事をおこなった強力造船所(現、株式会社ゴリキ)の強力修さんより、書籍「航跡は消えず」が平和協会に寄贈されました。

第五福竜丸は被災後、文部省に買い上げられ、東京水産大学において残留放射能の検査の後、一九五六年に水産大学の学生の航海のための練習船として使われることになりました。その改修工事をおこなった強力造船所(現、株式会社ゴリキ)の強力修さんより、書籍「航跡は消えず」が平和協会に寄贈されました。

第五福竜丸は被災後、文部省に買い上げられ、東京水産大学において残留放射能の検査の後、一九五六年に水産大学の学生の航海のための練習船として使われることになりました。その改修工事をおこなった強力造船所(現、株式会社ゴリキ)の強力修さんより、書籍「航跡は消えず」が平和協会に寄贈されました。

第五福竜丸は被災後、文部省に買い上げられ、東京水産大学において残留放射能の検査の後、一九五六年に水産大学の学生の航海のための練習船として使われることになりました。その改修工事をおこなった強力造船所(現、株式会社ゴリキ)の強力修さんより、書籍「航跡は消えず」が平和協会に寄贈されました。

善次は、「遠いところをよく来たな」と、傷ついた船体を慈しむように触っていたという。第五福竜丸修理のニュースは新聞にも掲載され、強力造船所の壁には反対ビラがはられた。しかし善次はひるまない。

「どこかがやらなければならぬことを、私の造船所でやっていくだけだ」

もちろん、工員たちの不安を解消するため、善次は全力を尽くしている。集会場に全員を集め、大学の先生による安全性の講義をしてもらったのも、その一つである。工員たちは納得してくれたものの、大湊の住民は強力造船所はおろか、工員たちにも近づこうとはしない。工員たちはしばらく風呂屋に入るのも断られたという。

第五福竜丸の修理を引き受けることで、様々な批判や陰口を叩かれることは、善次には分かりすぎるほどに分かっていたはずである。「種々の許可の窓口となる官公庁の申し出を断られなかったのだ」「もうかる仕事になりふりかまわないのだ」：そういう声を耳にしたことも何度かあった。ただ善次は、だれも引き受け手

のない傷ついた木造船を、どうしても見捨てることができなかつた。船造りに生涯をかけた男の矜持を、ここにも見ることができ

本書は、一九九三年、強力辰夫さんの叙勲の記念に編さんされ翌年、発行されたものです。

三重県伊勢市の大湊を舞台に地域の中心産業、造船の歴史とそれを担った人びと、強力造船所のあゆみが記されて感慨深いものがあります。

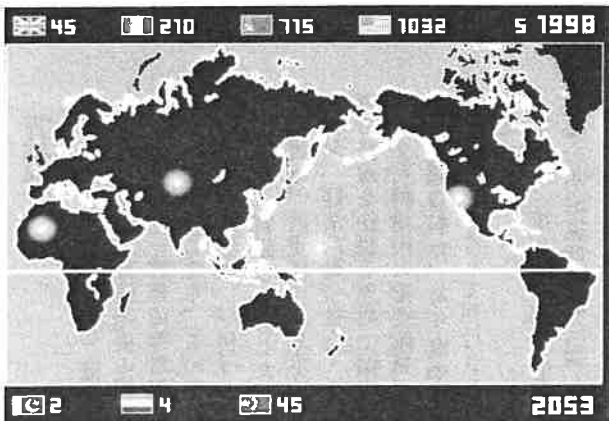
当時の新聞報道などでも、「船名の福竜丸を布で覆い隠して作業をすすめる」というような記事があり、福竜丸が周辺の住民に不安がられていたこと、一方で改修に携わった人びとの気概も本書の記述からうかがえます。

被災漁船にかんする資料、事件当時の回想手記を募集

平和協会は、ビキニ水爆実験五〇年にむけて、被災船に関する資料・情報や当時の市民の体験や回想の手記を募集します。展示館までお寄せください。

メッセージをいかに伝えるか —核実験データの映像作品の制作—

橋本 公



核爆発を表現するビデオ映像作品1945 - 1998より

「世界中で行われた核実験を視覚化する」。このテーマを掲げて一年以上取り組んだこの映像作品は、私が大学の卒業に際して制作したものです。

私は、今年の三月まで武蔵野美術大学・芸術文化学科で学んできました。そこで私は、少しでも多くの人に美術館などの公共施設を利用してもらうために、具体的対応策を検討し提案することなどを学びました。いわゆる、顧客と施

設をつなぐインターフェイスへの取り組みです。

卒業制作に際しても、この「インターフェイス」をキーワードにして、作品自体が社会に貢献できたらと考えました。思案に暮れているころ、あの九・一一同時多発テロが勃発しました。どうしてこういう悲惨な事件が起きたかを探るにつれて、たどり着いたのがこれまで核実験の歴史を短い時間で一望できる映像作品でした。い

ま存在する深刻な問題と、それを知らない人たちとを繋ぐインターフェイス。そういうものを作ろうと考えたのです。

ご存知の通り、一九九六年に包括的核実験禁止条約が採択されたものの、世界中で二千回以上の核実験が行われてきました。私の作品では、一カ月を一秒に凝縮して、核実験の光が次々と世界地図上で点滅していきます。一九四五年から一九九八年までを約一二分で、核実験の歴史を一気に振り返るのです。どの国の人が見ても理解できるように文字はいっさい使わず、数字と光の点滅という最小限のツールだけで表現しています。デザインもできるだけシンプルでスタイリッシュなものにして、核問題に無関心な若い世代のひとたちにも、興味を持って見てもらえるように工夫しました。

制作に際しては、見る人がそれぞれの思いで受け止められるように、できるだけ私自身の感性は押さえるように心がけました。核問題のようなデリケートな題材は、声高に叫べば叫ぶほど、なかには遠ざかっていく人もすくなくないかもしれません。その分野の専門

家でない私が、中立的な立場で作品を作れば、より多くのひとたちにメッセージを伝えられるのではと思ったのです。

実際に、卒業制作展で実施したアンケートでは、若いひとたちが熱心に作品を鑑賞してください、それぞれの思いを書き記してください。「こんなに近年まで核実験が行われていたとは！地球の叫びが聞こえそう」「こんな事実をいままで知らないで生きてきて、悲しい思いがした」。二〇日間の会期中に一〇〇人の方が心をこめて回答してくださり、その反響の大きさに制作した自分自身も驚かされました。

今回の経験で、若い人たちの核問題に対する関心が薄くなってきているのは、そういうものに全く興味がないという理由からではなく、受け取りやすい方法で情報が伝えられていないからではと感じました。伝達手段であるインターフェイスのありかたがもっと重要視され、平和をもたらすメッセージがより明確に語り継がれていければと思います。(「ル・ミューゼ箱根」開設準備室学芸員)